

第5章

授業改善実践プログラムの開発



第5章 授業改善実践プログラムの開発(Z氏の授業改善)

はじめに

山形大学では、授業改善は教員の自己研鑽と公開授業 & 検討会による相互研鑽であるとしてきた。自己研鑽には自ずと限界がある。それでは、相互研鑽することによって誰でもが、授業改善を進めていくことができるのであろうか。筆者の経験から、多くの教員は公開授業 & 検討会などのFD活動を通して、授業改善をある一定の水準にまで到達することができると思われる。しかしながら、「学生による授業改善アンケート」の極端に低い授業は、自己研鑽や年に1・2度の公開授業 & 検討会だけで改善していくのは非常に困難なことであるようだ。

そこで、今回取り組んだのは、筆者がある一つの授業を毎回参観し、授業終了後、授業者と検討会を行うことによって、その授業の改善がみられるかどうかを研究した。授業改善の指標としては、「学生による授業改善アンケート」を用いた。ご協力いただいた授業者にはこの場を借りて感謝申し上げる。

公開授業 & 検討会

第1回目(オリエンテーション) 2004年10月7日

授業の様様

- 14:39 教師登場したが、忘れ物をしたようで教師すぐに出て行く。(学生に「ちょっと待ってて」くらい言って出て行っても良かったのではないか)
(学生数46人)
- :40 授業開始のブザー。教師いない。
- :42 教師再び登場。(教師無言)
ビデオ機材などが入っているボックスを開けるのに奮闘している。
- :44 ボックスの箱が開く。
教師第一声「時間になったので始めます」。
スクリーンにシラバス表示(字が小さくて読めない。読めないものは出さない方がいい)
- :48 航空写真のスライドはきれいでみんな見ている。
(レーザーポインターが見えない。指示棒の方がいい)
(学生に出身地を航空写真上に指させたいのではありません?)
(室内の換気扇の音がうるさい)
- :52 「新聞をとっている人、手を挙げて」0人
「一週間に一回新聞を読んでいる人、手を挙げて」2人
- :54 「朝日新聞はwebから読める」(授業と何の関係があるの?)
- :55 「昨日の地震を知っている人?」、「地震を感じた人?」(学生は反応している)
- 15:06 廊下の音がうるさいので学生が後方のドアを開

める。続いて、教師が前方のドアを閉める。(この授業ではオリエンテーションが終了し、学生が移動し始めた)

- :09 自分のHP(質問掲示板)の紹介。
- :15 HPのアドレスを「間違っています」と訂正。
(履修登録を各自の携帯電話からさせるように工夫し、なおかつそれからアンケートもとろうとしている。そうしたことの説明にかなりの時間をとられ、学生はかなり混乱している)
- :18 他の授業から回ってきた学生が10人くらい入ってくる。
- :40 混乱の中、オリエンテーション終了。何人かの学生は教師を取り囲んで、履修登録の仕方を尋ねている。

授業の感想

- ・ 200人収容の教室に対して学生数が少ない(約50人)ので、適正なサイズの教室に変更した方がいいでしょう。
- ・ オリエンテーションは30分以内と決められているのに、1時間もしていました。これは教師がオリエンテーションの決められた時間(30分)やシステムを知らず、1時間くらい長く話をしなければならないと思い込み、話を引き伸ばしたことによるものとのことです(教師談)。
- ・ 履修届けを携帯メールで登録するように工夫していたが、これで学生は大混乱していました。履修届けは大学で決められた統一様式があるので、それに則ってしないと学生が混乱してしまいます。教師はこの統一様式も知らなかったようです。

第2回目 2004年10月14日

授業の様様

- 14:44 教師登場。無言でコンピュータの接続開始。
- :46 授業第一声「授業始めます」
- :50 いきなり神戸のスライドを見せる。(冒頭に今日何を話すかの説明があつてしかるべきである)PPTの図の見方がわからない。(科学的な図や表の見方の基本的な説明があつてしかるべきである。学会発表で使った図をいきなり見せられても学生は分からない)
- 15:00 1人の女子学生が荷物を持って教室から出て行く。(教師は反応せず)
1人の男子学生始めからうつぶせ寝。
- :05 PPTは続く。5人うつぶせ寝。
- :07 (今日のテーマが「断層」であることに参観者が気づく)
- :08 8人うつぶせ寝。
- :11 PPT終了して教師は明かりをつける。これまで

- ノートをとった学生は皆無。
- : 12 「断層」と大きな字で板書する。(よく見える。赤いチョークは見えない)
- : 23 みんな起きて、板書をノートに写し始めた。
- : 30 「この図は右横ずれ断層ですか、それとも左横ずれ断層ですか?」と挙手させた。(折角だから、何人かの学生に手を挙げた理由を聞いてみたらよかったのでは)
(赤より緑のチョークが見やすい)
- : 40 チョークが粉々になる実演を学生は喜んでいた。(字が大ききはっきりしていて、板書がとても見やすい)
- : 52 ピストルの弾がガラスに当たったときの模様を学生に黒板に描かせた。(学生数 59 人)
- 16: 00 (飛び石が当たったガラスを持ってきて学生に回したら、教師の言いたいことがよくわかり、感動するかもしれない)
(授業のタイトルの平野と断層の関連が分からない)
- 16: 10 ブザーとともに授業終了。

授業の感想

- ・ 小さな教室への変更を何度も指摘したのに、変更されていませんでした。来週には変更するとのことでした。
- ・ 今日何をするのか、授業の導入をもう少し大事にし、明確にした方がいいでしょう。
- ・ 授業の途中も何をしているのかを、はっきりした方がいいでしょう。
- ・ PPT よりも板書の方が、学生は授業にコミットしています。

第3回目 2004年10月21日

授業の模様

- 14: 40 学生数 6 人(教室変更を知らないため)
教師登場。学生がいないので、前回までの教室に学生を呼びに行く。
- : 44 学生の移動終了。
教師は出席カードを学生に一枚ずつ配布。学生数 49 人。
- : 46 「断層と盆地」と本日のテーマを板書する。これ以降、板書のみで授業が進行していく。
- : 48 学生 1 人入室。
- : 55 学生 2 人入室。
授業中ずっと、学生静かに板書を写している。
- 15: 05 学生 1 人うつぶせ寝。
- : 22 学生 1 人退出。
(どうしてこんなにたくさんの断層があるのか? 山地が上昇したのか? それとも盆地が下がったのか?) : 10 本を曲げて実演し、それを学生に渡してそれぞれがやってみるように回したが、学生はどうなったらいいいのか誰も理解できていないようだった。

か? という疑問を学生に持たせるような動機付けを与えた方が理解を進められたのではないか?)

(知的にとても面白い内容であるのに、この面白さを学生は分かってくれているのか?)

- : 26 学生 1 人入室。
- : 32 退出した学生戻ってくる。
「断層の活動時期はどうやってわかるか? (盆地はいつできはじめたのか?)」を板書。
(この疑問形での導入はいいのではないか?)
- : 35 学生 1 人退出
- : 45 退出した学生戻ってくる。(トイレに行っているようだ)
- : 46 (地層の年代はどうしてわかるのか?)
- 16: 00 1 人荷物を持って出て行く。
4 人うつぶせ寝。
- : 08 最後になると口がごもごもとなっている。
来週の予告。
「出席カードを出すように」
終了

検討会

Z 氏 「今日は一方的に喋ったが、終盤になって、学生ののりが悪いことや、理解できていないことも分かったがどうしようもなかった」

小田 「私は個人的に、とても興味深い内容だった。目から鱗の内容だった。話の筋もよく組み立てられていた。しかし、学生が理解できたかというところは思えない。折角、面白い話なのでみんなに理解して欲しいと思う。理解できたら、この授業が終わって、この授業の内容を友人や親に楽しそうに話す内容だと思う」

Z 氏 「理解できていないことは、教壇の上からも分かったが、どうすることもできなかった。学生に分からなかったかどうか聞き、質問してもらった方がよかったのかも知れない」

小田 「それも一つの方法であろうが、学生が分からないと言っても、教師としては同じ説明を何度も繰り返すしかないのではないだろうか。何度も話せば分かる学生もいるだろうが、同じ説明を何度しても分からない学生もかなりいるのではないか。それに授業中に質問されて、個々の学生に答えていくと他の学生がそっぽを向いてしまう恐れがある。そのことにも十分留意しなければならない。

大事なことは、授業の動機付けだと思う。最初に、山地や盆地のでき方を考えさせて発表させてみてはどうだろうか。すると、学生は自分なりにこの形成過程について論理的に考えるだろう。こうして授業へのコミットメントが確立されると思う。そして、その考えを根底から覆していくと、今回の授業内容は知的にとてもスリリングで、新鮮なものとなるのではないだろうか。

我々は授業中の学生の変化に臨機応変に対応でき

るわけではないので、授業の構成を用意周到にしておくことが大事なのではないか」

Z氏「学生に考えさせて発表させるのはいいかもしれない」

小田「とても授業の内容が面白かったので、私は授業観察のことを忘れて、途中でたくさんのことを質問したくなった。私が質問し、教師が答える、という授業も面白かったかもしれない。おそらく学生はびっくりするだろうし、それで授業内容の理解が進んだと思われる。しかし、毎回そうするわけにもいかないのです、質問するのをやめた。しかし、気の利いた学生が質問をし、それが学生全体の理解を助け、学習意欲をそそいたら、それは一番いいことなのかもしれない」

第4回目 2004年10月28日

授業の様様

14:40 ブザー（学生47人）

教師登場。

「新潟中越地震」について話し始める。
（授業のタイトルがないので何が今日の授業のテーマが分からない）

:43 パワーポイント（学生3人入室）

15:00 学生7人うつぶせ寝。

（教室のドアを閉めたので、教師の声が良く聞こえるようになった。グラフの縦軸、横軸をきちんと説明した）

:02 （学生1人退出）

:05 学生14人うつぶせ寝。

:15 パワーポイント終了。暗幕を開ける。（授業に関連したNHKかBBCのビデオはないのか？）

:25 学生は「地震断層」と板書を始めた時からノートのカバンから取り出し、ノートを取り始めた。（毎回、最後の10分でその回の授業のメインテーマを問う小テストをしたらもっと学生は授業にコミットするのではないのか？）

（買わせたテキストを使わないのか？ 買わせておいて使わなかったら学生怒るよ）

:55 声がぼそぼそなる。（エネルギー切れたのかな？）

16:00 「来週は単元毎の試験。試験時間は30分から1時間。手書きのノート持ち込み可」

出席カードを1枚ずつ配布。

「出席カードは一枚ずつマーキングしています」

「質問があったらしてください」

:04 終了

検討会

小田「新潟中越地震を直接調査したZ氏の話や写真はアップツウデートだったが、学生はテレビや新聞で見ていたので、それほど関心を示さなかったようだ。そもそも授業の導入部分でいきなり地震の話

を始めたので、学生はこれまでの授業との脈絡が理解できなかったようだ」

Z氏「授業をしていて、その通りだと思った。そこでパワーポイントが終わってから、板書した」

小田「パワーポイントを始めるといきなり学生が寝る。そして板書を始めると起き出してノートをとる。パワーポイントで授業を進めるのは難しいようだ。ところで、試験時間の予告が30分から1時間というのは幅がありすぎるのではないか」

Z氏「試験の時間が長くて、ぼーとし始める学生が多いときは試験時間を短くする」

小田「短い時間で学生に集中して試験を受けさせた方がいいのではないか」

第5回目 2004年11月4日

授業の様様

15:30 参観者登場

試験中。1時間の試験。

静かに試験を受けている。

試験を終わった学生も多い。

:43 試験終了

（後ろから前に答案用紙を送る）

:45 「この建物は地震に安全か？」と学生に問い、挙手させる。

（震度の設定をして質問しなければならないのでは？ また、他の建物と比較しなければならないのでは？）

「地震が起こったらどのようにして避難したらいいか」と学生に質問。

「大学の避難マニュアルはどうなっているか？」と私に質問。

:53 「地震の大きさ」、「震度」、「マグニチュード」と大きく板書。

:55 学生が購入したテキストで震度が載っているページを指示し、説明する。

16:03 「来週に試験を返し、試験の解説をする」
終了

検討会

小田「試験の解説をするのはとてもいいことだと思う」

Z氏「知識の確認をする」

小田「試験では学生はノートに書いた図を写すだけではないか。文章で書くようにもう少し指示した方がいいのでは」

Z氏「うん」

第6回目 2004年11月18日（前回休講）

授業の様様

14:38 教師登場

:40 「はい、それでは始めます」（学生47人）

:41 前回（11月4日）のテスト返却（一人ひとり学生の名を呼んで手渡しで返却）

:43 学生1人入室

- : 44 学生1人入室
- : 47 テストの返却終了
配点を板書する。(1:7 × 3, 2:7 × 3 + 15・・・合計100点)
「私は泣きたいです」(学生のテストのできが悪かったので、開口一番教師は言った)
板書しながら、テストの解説をした。
学生全員ノートをとり始める。
- 15:00 ある学生を指名して設問1の解説が分かったかどうかを聞いた。
学生は「わかりました」と答えた。
- : 02 「活断層：地表で観察される断層のうち、最も新しい地質時代(200万年前)に活動したことが明らかな地層」(新生代第四紀(176万年前～1万年前)
「地震断層：地震のときに地表にできた断層」
「震源断層：地震を引き起こした断層で、一般には地下での断層」
- : 20 男2人と女1人うつぶせ寝(スチーム暖房が入って温かい)
- : 25 「今までの話分かりますか」(学生を2名指名し「質問は」と聞いた)
学生「分かります」と答えた。
- : 26 女子学生一人退出
- : 34 軟らかい泥の地層と砂礫層を比較して、地震の揺れの大きさと長さを図示しながら説明。(中山町の例を言っているが、山形出身ではない学生にとってはわからないだろう)
- : 40 教師は学生の顔を見ずに(黒板かメモを見て)喋り続けている。
(男6人うつぶせ寝)
- : 45 最後の設問の解説に入る。
- : 52 「質問は?」「解説は以上です。全体を通して質問はありませんか?」質問です。
終了
第一回目「授業改善アンケート」開始
- 16:05 終了
検討会
小田「話に枝葉が多くて、講義の柱を理解するのが難しいのではないか」
Z氏「学生の基礎知識がないので、どうしても用語の解説をしなければならない」
小田「確かにその通りだが、学生は何が講義の幹なのかわからなくなって、授業を聴くのを途中で止めているようだ。用語解説の資料などをプリントして渡してみてもどうか。学生の理解のためには、話の展開はシンプルな方がいいと思う。そのように授業を構成してみてもどうか」
Z氏「それはそうなんだが・・・」
小田「授業中、学生をまったく見ていない時間帯があった。学生とのアイコンタクトが重要なのではないか」
Z氏「意識しなかった。これからは気をつける」
小田「授業の始まりで、テストの解説を1時間と約束したがそれを大幅に伸ばした。学生との約束は極力守らないと」
Z氏「はじめに丁寧に解説しすぎた」
小田「板書を文章で書いたのはいいことだと思う。図だけでは学生は授業の内容を後で再現することができない。自己学習のためには、文章を黒板に書くことは必要なことだと思う。今回はそれがよかった」
- 第7回目 2004年12月9日(前回の授業は参観できなかった)
授業の様様
14:46 教師登場(学生46人)
第一声「後ろから3列目までに座っている人は、一番前に座ること」
「少し遅れましたけど、今日は・・・」と言って(堆積物粒子の生産 風化)と板書し講義を進めていく。
- : 58 「どんな場合に山崩れは起こるか?」と最前列の学生に質問する。
学生は「雨」と答える。次の学生は「地震」と答える。
- 15:02 女子学生1人入室
:15 男子学生2人うつぶせ寝(一人すぐに起きる)
:25 教師の説明が分からないので1人の学生が後ろの学生に教えてもらっている。わかったようだ。
- 16:00 「小さい石ほど下流にあることは、学校でどのように説明されてきたか」と学生に質問し、あてる。
学生は答える。
- : 06 授業終了
「出席カード」を配る。
板書した「風化核」の核の字が読めないので、出席カードを配る最中に何の字か質問した。
「問題を黒板に書くので出席カードの裏に解答を書いて終わりにします」
板書(大雨の時にどうして崩れるか力学的に説明しなさい)
- :10 ブザー
:12 1人目の学生提出。13分までにほとんどの学生提出。15分に全員提出。
- 検討会
小田「授業の最初に後ろ3列を空けて、前に座らせたことはいいことだ」
Z氏「うん。教室が引き締まった感じがする」
小田「前回の授業評価に書かれていた「教室が暑い」という意見を、今回すぐに教室の窓を開けさせて、室内の気温を適正にしたのはいいことだと思う」
Z氏「小田さんや学生の指摘はすぐに取り入れるようにしている」
小田「授業がゆっくりすぎて、スピード感到欠けるので

は。学生が講義を受けていてもっと先を知りたい、という気持ちを起こさせることは大事なことはないか」

Z 氏「ほとんどの学生が板書し終わるのを見て、次に進んでいる。早く進めると理解できなくなるのでは」

小田「確かに丁寧に教えていると思う。でも、学生をもう少し引っ張っていったいいのでは。難しいところであるが。ところで、途中で「ドライ・アバランシュ」と板書したが、それがどのようにして起こるのか誰でも疑問に思うのに、何も説明がなかった」

Z 氏「小田さんに前回指摘された、あまり枝葉を生やして授業を進めないほうがいいということを守って、枝葉のドライ・アバランシュを説明しなかった」

小田「説明しないならば、板書する必要はなかったのでは。学生が混乱するよ。」

授業の途中でしばらくたって板書した記号が間違っているのを訂正したが、何気なく訂正した。大きな声ではっきりと示した方がよかったのではないか」

Z 氏「前回の授業評価が低かった。一生懸命頑張っているのに。自由記述に「熱意がない」と書かれた」

小田「熱意は4.0と高い評価だったではないか。一人の学生に書かれたからといってくよくよすることはないよ」

第8回目 2005年 1月13日(以後は所要のため参観できないのでこれが最終となる)

授業の様相

14:39 教師登場(学生49人)

授業開始前にコンピュータの音声が教室のスピーカーに入るかどうかを確認したが、それができないことが分かり、研究室に戻ってコネクションを作成した。

教師は黙々とコンピュータと機材との接続をしている。

(学生は話をしながらも、おとなしく着席している)

:42 授業開始

「スマトラ島西方沖の地震」と板書する。

津波の話。パワーポイントを使って説明していく。

:45 男子学生1人入室。

:47 女子学生1人退出。

:48 男子学生1人入室。

:49 男子学生1人入室

:53 女子学生1人入室

15:00 NHK ニュースのビデオを見せる。このビデオの内容から小テストの問題を出す。

:10 男子学生2人うつぶせ寝。他の学生は真剣に見ているが、ノートはとっていない。

:15 ビデオ終了。

:16 板書で「津波の説明を始める」

:35 男子学生5人うつぶせ寝。

:40 男子学生7人うつぶせ寝。(外は雪。室内は暖かいのに、学生はコートを着て受講している)

:55 「陸上起源の堆積物」(最後になって堆積物の話になる)

16:00 「あと5分くらいで終わりたいと思います」(先を知らせることはいいことだ)

リアス式海岸の被害の説明。

:05 男子学生一人携帯電話の音がなる。

授業終了

「出席カード」を配る。

問題

1. 東大地震研の「都司」先生は何と読むでしょうか?

2. 「Tsunami」を知っていた外国人はどこの人だったでしょうか?

津波はどうして起こるか?

検討会

小田「up to dateな話題であるが、授業名の「平野の地下の・・・」のタイトルと今日の話はどう関係があるのか」

Z 氏「そのことについては、授業の始めに説明したが、理解を得られなかったかも知れない」

小田「ある地点に最初に到達する津波が引き潮である場合と満ち潮である場合があるが、それはどうしてだろうか?」というように疑問を投げかけて、学生に考えさせそれを答える方式で授業を進めた方が学生に刺激があり、学生が授業にコミットできるのではないか」

Z 氏「それはいい。そのように授業を展開できればよかった」

小田「授業の平野の地下の成り立ちについては、これから深めていくのか」

Z 氏「あと、2回の授業で深めていく。それから以前テレビのパラエティ番組に出演したことがある」

小田「それは面白い。授業に関係があることなので、その時のビデオを流してみてもどうか。学生も興味を持つことだろう」

Z 氏「ビデオを流す予定である」

まとめ

このクラスは、およそ50人の履修者のうち10名以上が、履修登録の際、他の授業から追い出されたものたちである。こうした事情から、この授業に対するコミットが低い学生が2割近く含まれていたことになる。これも、授業者自身が履修登録の方法を知らず、延々と1時間も行ったことに起因している。さらに、携帯電話から履修登録をさせようとし、学生に混乱を与えた。こうした第一回目のオリエンテーションがこの授業と授業者に対する印象をかなり悪くしている。後々こうした第一印象を拭い去ることは難しいので、第一回目の授業には誰もが

細心の注意を払うべきである。

参観者は毎回、最後列の席に座り、授業を参観した。授業終了後、授業者が参観者の研究室に「今日はどうだった」と言って入ってきて、2人で検討会を行った。検討会で出た意見は、教室変更のようにすぐには対応されなかったものもあるが、おおかたはすぐに対応がなされた。

「学生による授業評価」の分析は後で行うとして、ここでは全体的な印象を書いておこう。第一回目のオリエンテーションでこの授業は板書を中心に行っていく、と言ったにも関わらずパワーポイントを使う場面が多かった。

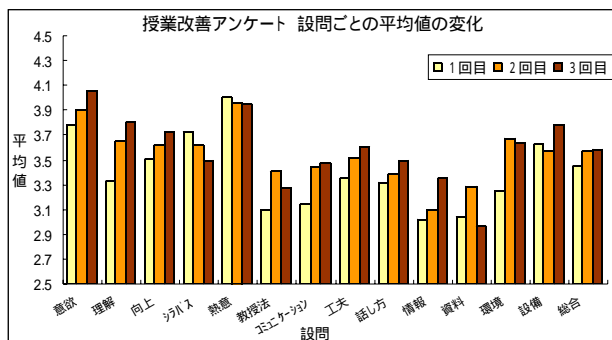
中越地震やスマトラ沖地震のような最新の話題も授業で取り上げた。学生はテレビなどで知っているの、それほど感銘を受けている様子ではなかった。こうして、最新の情報を入れたために、授業内容はシラバスに書かれたものと大幅に違うものとなったようだ。今回の授業を見ると、学生は最新のトピックよりも、十分に設計された授業の方がいいようだ。

今回、この試みを実施して分かったことは、15回の授業はきちんと設計されていることが何よりも大事だということである。チョークの色や教員の話すスピードなどは二の次である。大学では高校までとは違い、教員自らテキストを書くように授業を設計していくことになる。テキストを販売するしないはともかく、授業者は目次をつけて自分の講義録を編集してみれば、確実に教育力が向上するであろう。また、このことによって授業内容の質も第三者によって検証することができるのである。

授業者は参観者の指摘を改善に生かしていったが、参観者は授業内容にまでは口をはさむことはできない。ましてや、15回全部の設計がどうなっているのかは、参観者が指摘できる範囲を超えている。本当に授業を改善しようとするならば、授業が始まる学期当初に授業のデザインを丁寧に検討しておくことが必要である。公開授業&検討会だけでは、自ずと限界があることが判明した。

授業中に「学生による授業評価」を3回実施した。学生には、どうしてこんなにアンケートをとるのかと不評だった。学生に詳しく説明すればよかったのかも知れないが、自然なかたちで学生の声を聞きたかったのでそうしなかった。

「学生による授業評価」のかなりの項目において評価が上昇していたが、いずれもそれほど顕著なものではなかった(図を参照)。



「学生の意欲」を問う設問では、平均点が回を追う毎に3.78, 3.90, 4.05と徐々に高くなっていった。また、評点に1または2をつけた学生の率は、14%, 6%, 4%と激減していた。教員の授業改善の姿勢から、学生も授業に対する意欲が増してきたものと考えられる。

「内容を理解できたか」という設問でも、回を追う毎に3.33, 3.65, 3.80と高くなっていった。評点に1または2をつけた学生の比率は、18%, 4%, 2%と激減していた。

「考え方、能力、知識、技術などの向上に得るところがあったか」という設問においても、3.51, 3.62, 3.73と右肩上がりだった。評点に1または2をつけた学生の率は、14%, 4%, 5%と減少していた。以上、今回の試みによって、学生の学習態度が改善されていたことが分かる。

「シラバスの記述は適切か」という設問では、3.73, 3.62, 3.49と回を追う毎に漸減していった。これは授業者が授業の後半に最新の話題をたくさん盛り込んだことによるものである。シラバス通りであったわけではない。こうした点から、学生の評価は正しいと言わざるを得ない。学生は学期末までシラバスを覚えているかどうかはいつも問われることだが、大まかなことは覚えているであろう。

「教員の熱意」の設問では、4.00, 3.96, 3.95とほとんど変化がなかった。評点に1または2をつけた学生の率は、6%, 2%, 2%と減少した。

「教え方はわかりやすかったか」という設問では、3.10, 3.40, 3.27と上下していた。他の設問項目の評点と比べると、3回目のアンケートでは「板書やOHPなどの資料提示は見やすかったか」の2.96に続いて低かった。学生は授業が分かりにくかったと感じているのである。ところが、評点に1または2をつけた学生の率は、回を追う毎に、28%, 16%, 14%と減少した。このような点を見ると、今回の授業改善の効果はそれなりにあったものと思われる。

「教員の一方的な授業ではなく、コミュニケーションはとれていたか」という設問では、3.14, 3.44, 3.47と上昇した。評点に1または2をつけた学生の率は、28%, 8%, 9%と減少していた。学生を当てたりしながら、それなりの工夫はあったと思える。

「授業方法は工夫されていたか」の設問では、3.35, 3.52, 3.60とわずかに上昇していた。評点に1または2をつけた学生の率は、20%, 12%, 9%と減少していた。

「教科書の指定・推薦や参考書などの情報提供は適切だったか」の設問は、3.02, 3.10, 3.35とわずかに上昇していた。評点に1または2をつけた学生の率は、26%, 19%, 9%と激減していた。

「板書やOHPなどの資料提示は見やすかったか」という設問では、3.04, 3.29, 2.96と低い水準を推移していた。評点に1または2をつけた学生の率も、34%, 23%, 36%と高かった。それにしても3回目にこれほど不満が出てきたのにはそれなりのわけがあったのであろう。お

そらくパワーポイントかビデオがとても見にくかったと推察される。最後の数回の授業を筆者は参観できなかったので、この理由が分からない。全体的に言えることは、パワーポイントはかなり不評なのである。特に、学会発表などで使ったものを直接授業に導入されると、学生は何を見ていいのかわからなくなる。やはり、学生に分かりやすいようにきちんとスライドを作り直すべきであろう。

「教員が私語や携帯電話を注意するなどして、教室に良好な勉学の環境が保たれていたか」という設問では、3.25, 3.67, 3.64 と2回目に上昇していた。評点に1または2をつけた学生の率は、18%, 8%, 7%と2回目に激減していた。私語や携帯電話がなっていたわけではなく、静かに授業は行われていた。おそらく、暖房用のスチームが暑かったので、窓を開けるように学生に指示したのがよかったのかもしれない。

「教室、施設、設備は良かったか」の設問では、3.63, 3.58, 3.78 であった。この設問の評点は他の授業の評点と比較すると、低いことがわかる。別段、悪い教室ではなかった。この設問項目は授業の満足度に比例しているようである。

最後に、「この授業を総合的に判断すると良い授業だと思うか」という設問では、3.45, 3.58, 3.58 と2回目にわずかな上昇が見られた。評点に1または2をつけた学生の率は、14%, 10%, 4%と減少していた。

以上のように見てくると、今回の公開授業&検討会の試みによって、この授業に否定的である評点の1や2をつける学生数は明らかに減少していた。これからは、評点に4や5をつける学生が多くなるように努力することである。それはより魅力的な授業を設計するということに尽きるのではないだろうか。